



「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も…」

行動すればできる、行動しなければ何もできない。どんなことでも強い意志をもってやれば、必ず成就する。この後には「成らぬは人の為さぬなりけり。」と続きます。

似たような意味の言葉は英文にも、漢文にも見られますが…

「やるだけやったら 何とかなる なるようになる 何とでもなる」

これは現BSNラジオパーソナリティーの遠藤麻里さんの「なるなるの法則」の名言です。「やるだけやったら…」何度、この言葉に背中を押してもらったことでしょうか…

「全国学力学習状況調査」等の結果から

4月に3年生が行った「全国学力学習状況調査」の結果が7月末に公表されました。昨年まで全国平均並みだった新潟県平均が、今年度、全国平均を下回る結果となりました。さらに残念なことに、本成寺中学校はその県平均をも下回ることが明らかとなりました。

また、4月12日に全校で行った標準学力検査(NRT)では、全学年のほぼ全教科で偏差値が【50＝全国平均】を下回り、学年が進むにつれてその差が開き、期待される点数に達しない人数が増えていく状況が明らかとなりました。

質問番号	質問内容 (数値は「1当てはまる」の回答割合)	当校	県比較	全国比
(16)	学校に行くのは楽しい。	57.3	13.2	13.8
(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しい。	57.3	26.0	27.0
(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	58.7	26.6	30.5
(21)	平日の学校以外での学習時間 (1時間以上の生徒の割合)	60.0	▲0.7	▲4.3
(22)	休日の学習時間 (1時間以上の生徒の割合)	24.0	▲8.4	▲12.2
(29)	1,2年時の授業では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。	49.3	22.7	27.1
(33)	級友間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	64.0	19.5	27.6
(34)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	61.3	28.1	34.2
(35)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。	54.7	22.0	27.2
(36)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。	60.0	20.8	24.5
(39)	学級生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	62.7	17.8	27.2
(40)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	60.0	21.6	29.8

これは全国学力学習状況調査の「生活習慣や学習環境に関する質問調査」の結果から、特に学習(授業)に関わる質問を拾ったもので、数値は「1あてはまる」「2どちらかといえばあてはまる」「3どちらかといえばあてはまらない」…と続く回答のうち「1あてはまる」のみの回答割合です。

ほとんどの質問で「1当てはまる」と回答した3年生が半数を超え、さらに県平均、全国平均と比較して、20～30%ほど高い割合を示しています。ちなみに(16)「学校に行くの

は楽しい」では「1当てはまる」と「2どちらかといえば、当てはまる」の合計が92%を示しています。また、ここで示していない質問でも、ほぼ全ての質問で好ましい回答が県、国平均を上回っています。この結果から「本成寺中3年生は奇跡的に素晴らしい中学生である」と言っても過言ではありません。しかし、質問番号(21)(22)の学習時間に関する質問だけが県、全国の平均値に届いていないことが分かります。

学力調査と質問調査の結果を合わせて考えると、家庭学習習慣が確立しておらず、学習量の不足によって基礎学力が定着していない状況が明らかです。また、授業には前向きに参加しながら、学力そのものや学びに向かう力に結びついていない状況であり、これもまた安定した基礎学力が伴っていないことに起因すると考えられます。

「ドリパタイム」を始めます！

家庭学習量の不足、家庭学習習慣が定着していない要因としては、現在、家庭学習は、各教科の授業担当の先生がそれぞれに宿題として課していて、他の家庭学習は生徒の自主性に任せています。そのため生徒の家庭学習への意識が高まらないことや、家庭学習をする雰囲気为学校全体に広がっていないことが考えられます。

三条市では今年度から全小中学校でタブレット端末に「ミライシード(ドリルパーク)」を導入し、家庭学習での活用を勧めています。ドリルの問題を解くとすぐに正解・不正解が示され、そのドリルの進み具合や正答率に応じて、AIがその生徒に最適な出題をするものですが、当然その取組状況には個人差があります。

そこで本成寺中学校では来週9月30日から、このドリルパークを活用して、全校体制で行うドリル学習の時間「ドリルパークタイム(略称：ドリパタイム)」を学校生活に位置付けて、取り組んでいくことにしました。

具体的には、終学活の15分間のうちの10分間をドリルパークに取り組む時間とします。これまで終学活で行ってきた連絡等はタブレットを活用するようにし、「やるこんノート」は日々のコメント(日記)の部分を中心に家庭で記入するなど、終学活の所要時間を短縮できるように工夫して、終学活終了時刻は原則として変更しない想定です。

取り組む教科や範囲は問わず、各自のペースで取り組んでもらいます。学級担任だけでなく学年部の先生や4学年部の職員が教室に出向いて、生徒の質問を受けます。

生徒の皆さんには、毎日取り組む教科、範囲や分量を自分で決めてもらうわけですが、10分間でやりきれなかった問題や分からなかった問題を放置せず、必ず家庭学習として取り組んでください。また学力の定着には繰り返し行うことが大切です。繰り返しの取組や発展問題への取組をぜひ家庭学習として行ってほしいと考えています。

「ドリパタイム」のねらいは、以下の2点です。

- ① 家庭学習習慣を確立させ、基礎学力を定着させること。
- ② 取り組んだ成果「やればできる！」を実感すること。

なお、取組方法については、来年度以降へ継続していくためにも、より効果が上がるように、なお且つ生徒や先生方に負担のより少ない形になるよう改善していきます。

将来的な展望としては、「やればできる！」をより実感してもらうために、いずれドリパタイムの中で簡単な振り返りテスト「ドリルパークテスト(略称：ドリパテスト)」を取り入れたいと考えています。各教科で示された範囲に1週間集中して取り組んでもらい、学年全体が「やればできる！」と足並みを揃えて学力の定着を図っていくイメージです。

保護者の皆様へ(お願い)

- ① 家庭学習環境を整えてくださるようお願いします。

できれば、ご家庭内で家庭学習時間を決めていただき、その時間はテレビを消すなど、お子さんが集中して取り組める環境を整えてくださるようお願いします。

- ② ミライシード(ドリルパーク)を、ぜひご覧ください。

お子さんがどんな学習をしているのか、ぜひタブレットを覗いてみてください。問題に答えるとすぐに○・×が表示されるので、クイズ感覚で一緒に学習していただくと楽しいと思います。

この取組を「為し」、結果を「成す」ために、ぜひご理解ご協力をお願いいたします。